

ハタハタ資源対策協議会資料

水産振興センター

表1 秋田県における漁獲可能量と漁獲実績の推移

単位:トン

| 年 | 沖合 | | | 沿岸 | | | 合計 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 配分枠 | 漁獲量 | 実績(%) | 配分枠 | 漁獲量 | 実績(%) | 配分枠 | 漁獲量 | 実績(%) |
| 平成 7年 | 85 | 53 | 63 | 85 | 89 | 104 | 170 | 142 | 84 |
| 8年 | 110 | 81 | 74 | 110 | 157 | 143 | 220 | 238 | 108 |
| 9年 | 180 | 139 | 77 | 180 | 288 | 160 | 360 | 427 | 119 |
| 10年 | 300 | 162 | 54 | 300 | 436 | 145 | 600 | 597 | 100 |
| 11年 | 400 | 142 | 36 | 600 | 537 | 89 | 1,000 | 679 | 68 |
| 12年 | 400 | 265 | 66 | 600 | 886 | 148 | 1,000 | 1,151 | 115 |
| 13年 | 520 | 506 | 97 | 780 | 958 | 123 | 1,300 | 1,464 | 113 |
| 14年 | 680 | 384 | 56 | 1,020 | 1,444 | 142 | 1,700 | 1,828 | 108 |
| 15年 | 960 | 906 | 94 | 1,440 | 1,939 | 135 | 2,400 | 2,845 | 119 |
| 16年 | 1,000 | 707 | 73 | 1,500 | 2,200 | 157 | 2,500 | 2,906 | 116 |
| 17年 | 1,000 | 489 | 49 | 1,500 | 1,864 | 124 | 2,500 | 2,353 | 94 |
| 18年 | 800 | 943 | 118 | 1,200 | 1,636 | 136 | 2,000 | 2,579 | 129 |
| 19年 | 720 | 846 | 118 | 1,080 | 771 | 71 | 1,800 | 1,618 | 90 |
| 20年 | 1,200 | 868 | 72 | 1,800 | 2,019 | 112 | 3,000 | 2,887 | 96 |
| 21年 | 1,040 | 1,054 | 101 | 1,560 | 1,439 | 92 | 2,600 | 2,493 | 96 |

平成9年以降は、沖合は管理漁期(9月～翌6月)、沿岸は漁期(11月～翌1月)の合計値(水産漁港課調べ)

H21年の配分枠に対する実績は、沖合101%、沿岸92%、全体で96%となった。

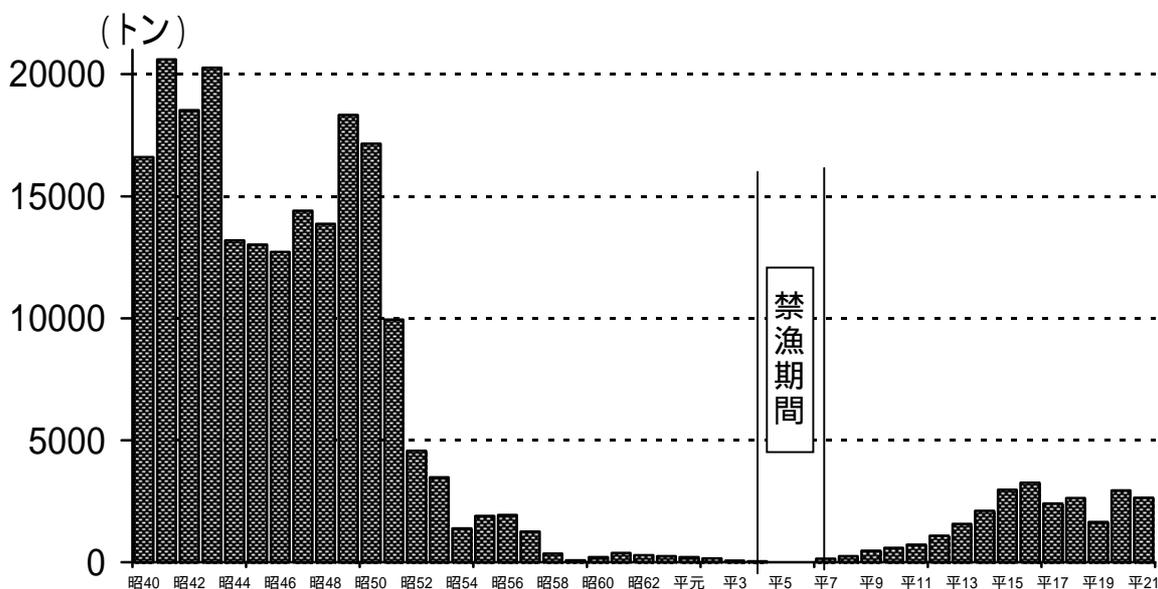


図1 秋田県におけるハタハタ漁獲量の推移

(H19年以前は農林水産統計、H20,21年は東北農政局速報値)

H21年の本県漁獲量は2648トで、H15年以降は、H19年にやや減少したもののほぼ同等の水準で推移している。

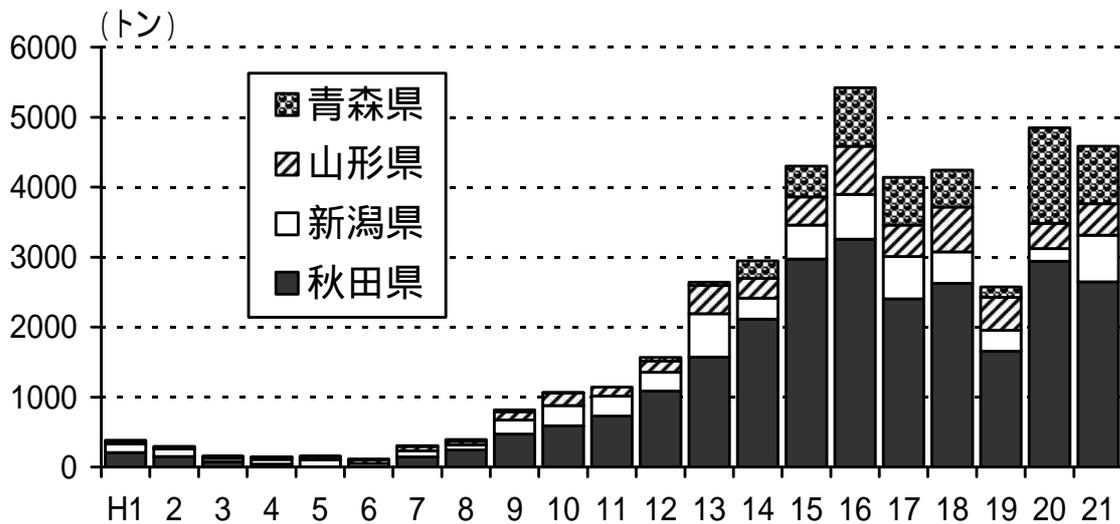


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

H21年の4県漁獲量は4583トで、H20年漁期に続き、H15～H18年と同水準である。秋田県の割合は58%で、前年に比べ2.9ポイント減少した。県別では秋田2648ト(前年比90%)、青森820ト(＃60%)、山形448ト(＃125%)、新潟667ト(＃361%)で、新潟・山形で増加、秋田・青森で減少した。

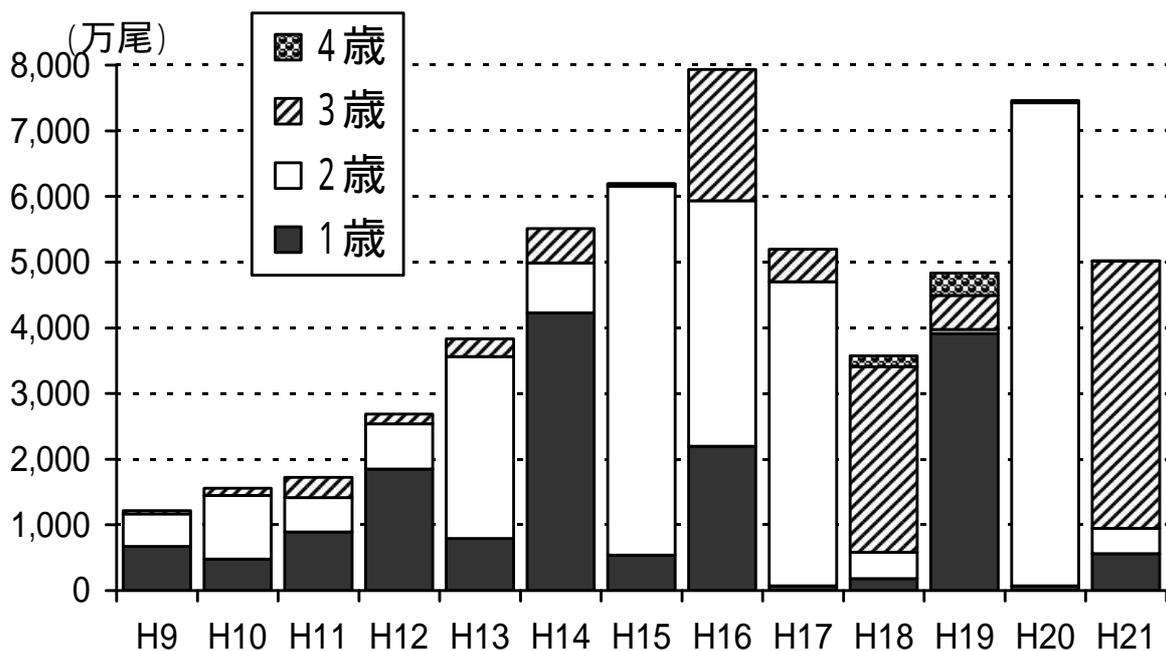


図3 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移

(H14年までは1～3歳の3群、H15年からは1～4歳の4群に分離)

H21年漁期はオス・メスともにH18年生まれ(3歳)を主体とし、H19、20年生まれ(1、2歳)が混じる組成だった。

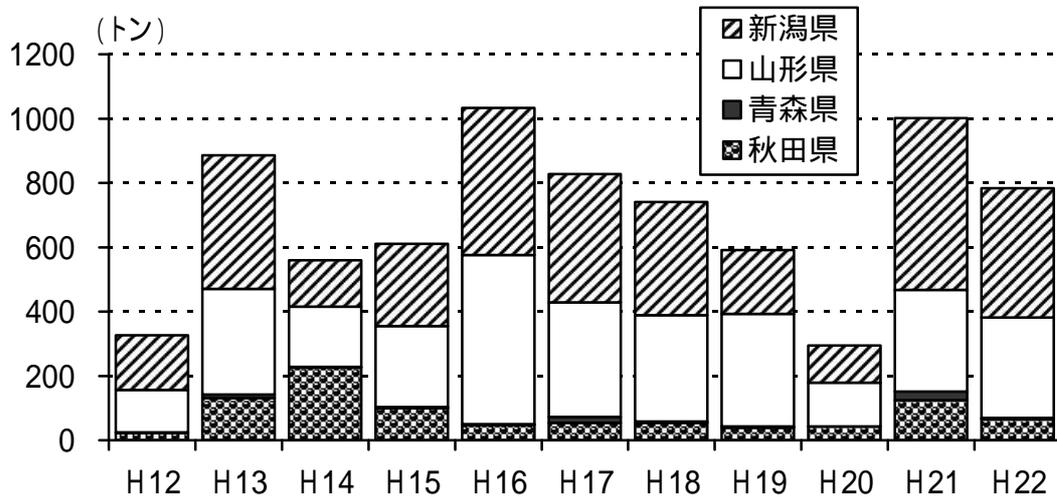


図4 1～6月における日本海北部4県底びき網漁獲量の推移

(水産振興センター調べ)

本年1～6月の日本海北部4県の漁獲量は784トンで、前年の78%に減少した。各県の漁獲量は、新潟403トン(前年比78%)、山形312トン(99%)、秋田65トン(52%)、青森4トン(15%)で、4県とも前年より減少した。

調査船での調査結果(稚魚)

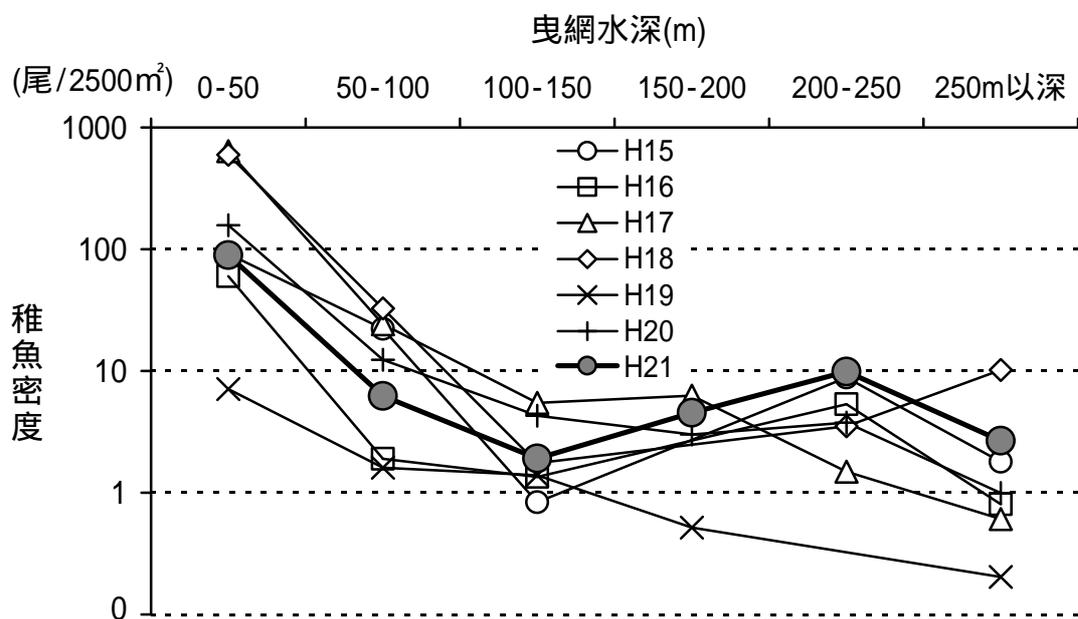


図5 4～8月における八タハタ仔稚魚の採集密度(第二千秋丸調査)

これまでの調査により、各年生まれの八タハタの資源量は、水深250m以深での稚魚密度を反映すると考えられる。

H21年生まれの稚魚密度はかなり高く、資源量が著しく大きかったH18年生まれに次ぐ水準だった。

今漁期は、H21年生まれ(1歳)の尾数はかなり多いことが期待できる。

調査船での調査結果(成魚:11-12月)

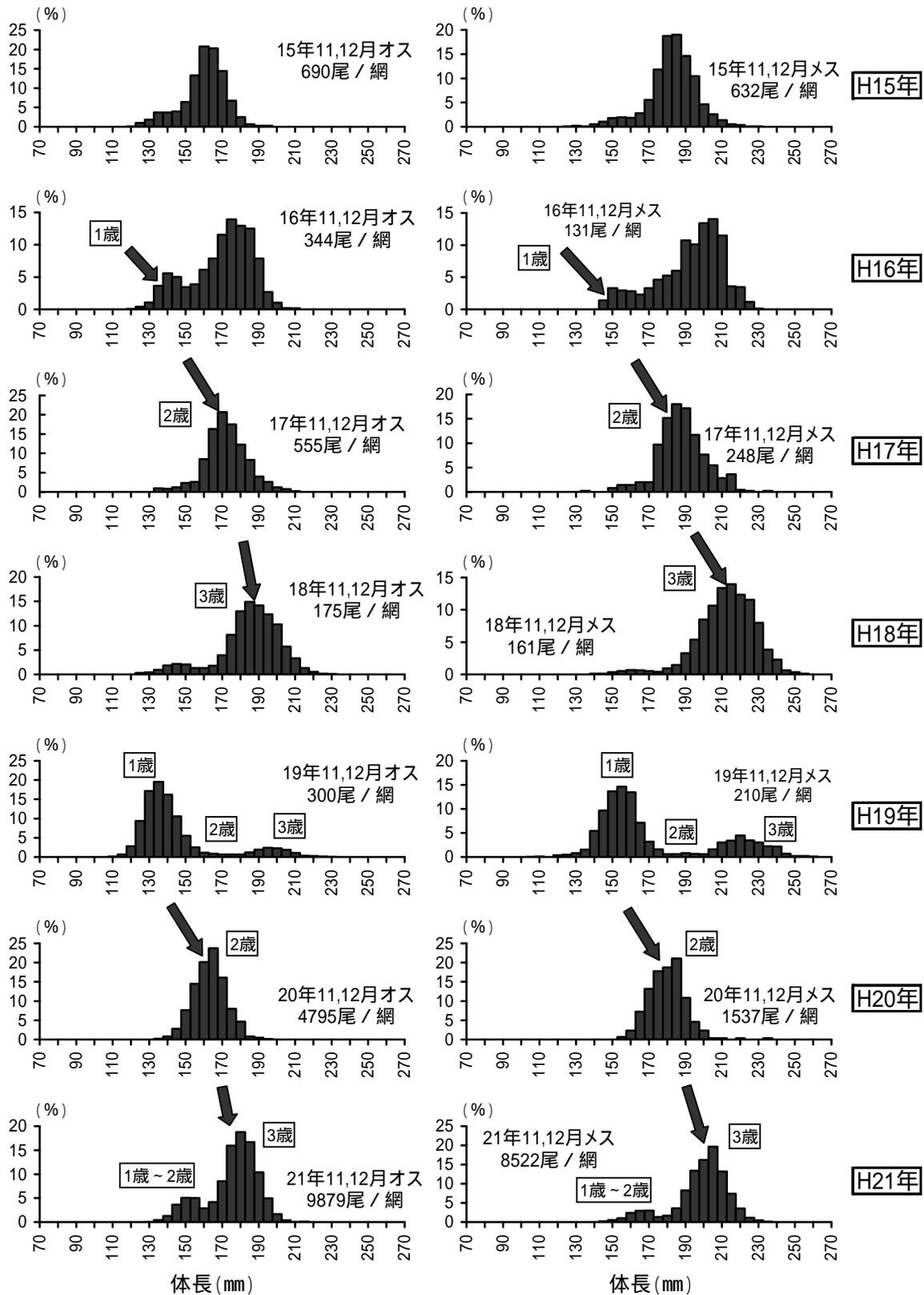


図6 11、12月における八タ八タ体長組成(千秋丸底びき調査)

【昨年の傾向】

オス、メスともH18年生まれ(3歳)を主群とし、H19、20年生まれ(1、2歳)が混じっていた。

調査船での調査結果(成魚:4-5月)

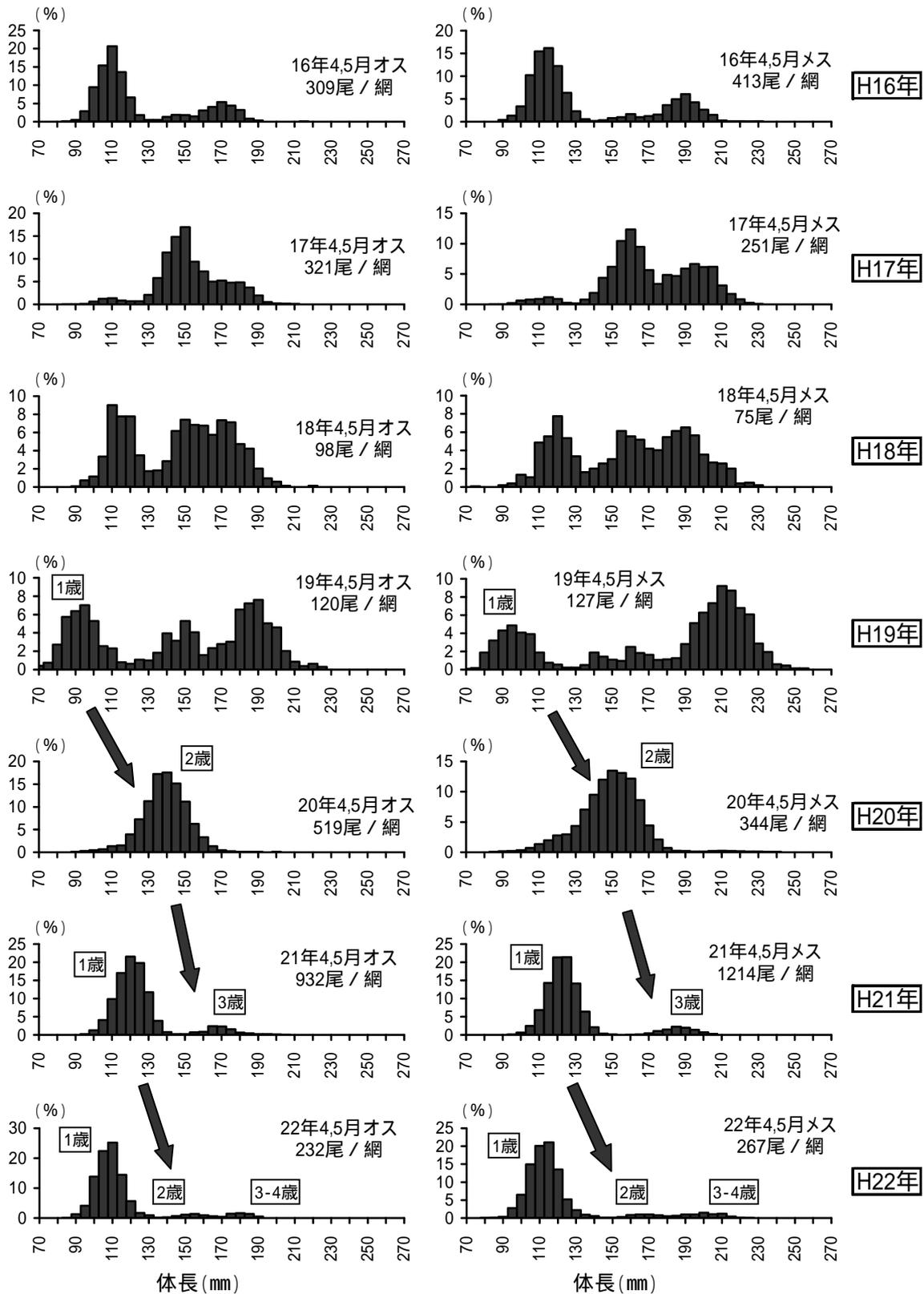


図7 4、5月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

【今年の傾向】

H21年生まれ(1歳)の割合がかなり高く、昨年の主群だったH18年生まれ(4歳)および昨年同期に多かったH20年生まれ(2歳)の割合は低くなった。

調査船での調査結果(成魚: 9 - 10月)

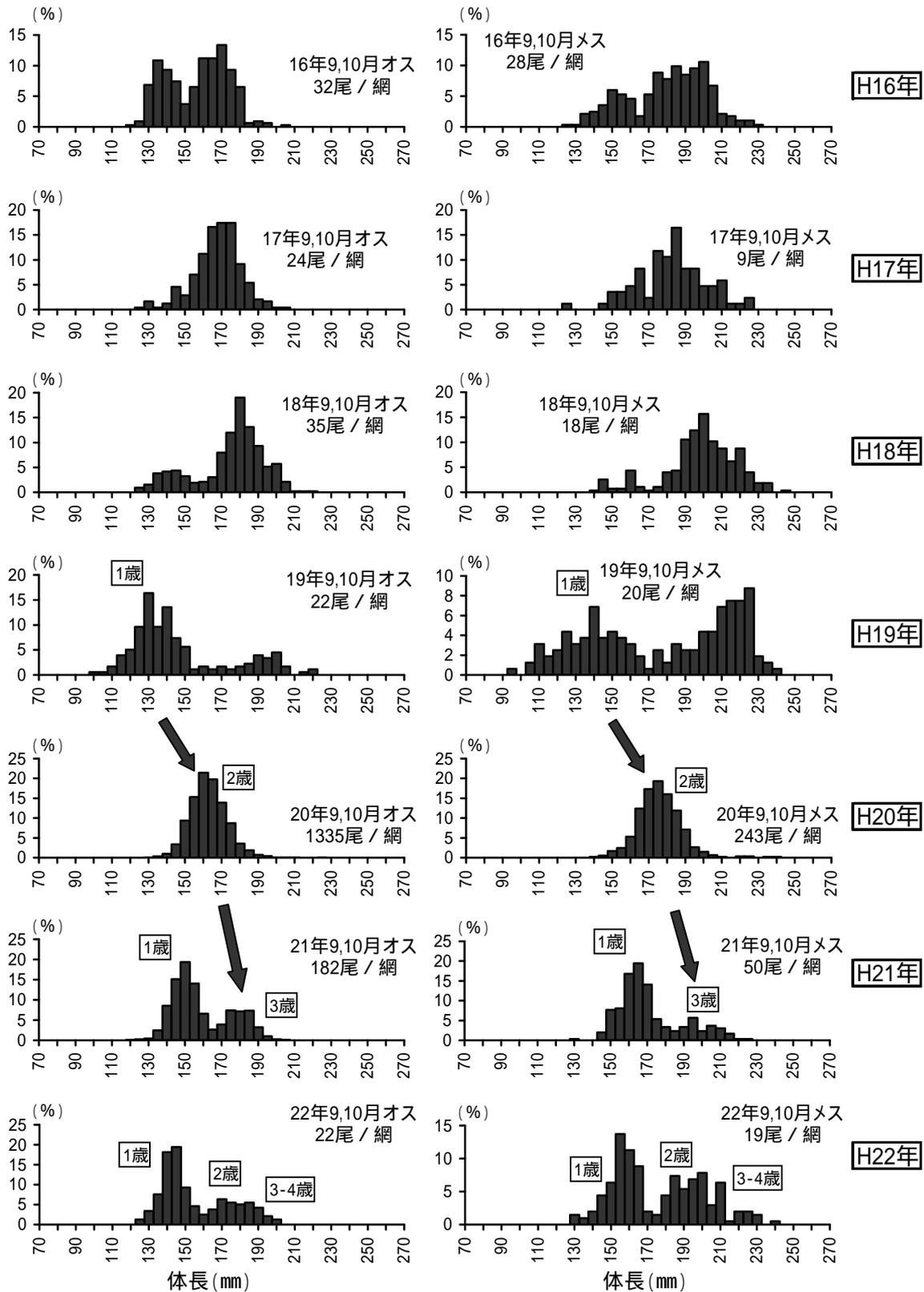


図8 9、10月における八タハタ体長組成(千秋丸底びき調査)

【今年の傾向】

オスメスともH21年生まれ(1歳)、H20年生まれ(2歳)およびH18,19年生まれ(3,4歳)がみられる。

H22年漁期のハタハタ漁獲対象資源量

1、2歳のまとまった漁獲が期待できる。

また、今漁期は、4歳の割合が例年に比べて高い。

今漁期のハタハタ資源は、小～中型(1、2歳)が主体となるものの、大型(3、4歳)も比較的多く混じるものと考えられる。

解析の結果、秋田県の漁獲対象資源尾数は 9894万尾、資源量は約 6000 トン と推定した。

[参考]

本県沿岸における年齢別漁獲対象資源尾数

| | |
|------|--------|
| 1歳 | 7368万尾 |
| 2歳 | 1532万尾 |
| 3歳 | 229万尾 |
| 4歳以上 | 765万尾 |
| 合計 | 9894万尾 |